

或は職場の同僚等にご吹聴の上一人でも多くの会員加入にご協力下さいませようお願い申し上げます次第です。

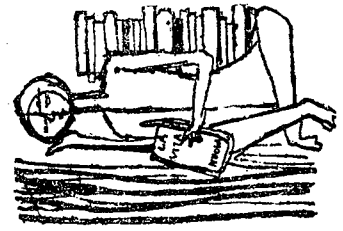
◆ 住所勤務場所等の変更連絡等について

連絡、配本等に関係の深い住所、或は勤務場所が変つた場合は必ずそして成るべく早く事務局までご連絡下さい。配本の間違いや遅延、未着紛失等をふせぐ上からも是非共に連絡をお忘れになりませんようお願いいたします。

前橋市城東町二丁目三の三
群馬県立図書館内

みやま文庫事務局

電話 前橋 023-3008
振替東京 一四二五九



みやま文庫

会報

No. 13

43. 3. 1

編 集 部 よ り

◆ 昭和四十三年度刊行計画について

去る一月下旬行われました編集委員会で、昭和四十三年度の刊行予定が次のように立案されました。

※ 「三國街道」

四十二年度第三回配本の「例幣使街道」につぐ、街道シリーズの第二集で執筆者は次の通りです。

「総論」 萩原 進 (前橋市立図書館長)

- 「金古宿」 近藤 義雄 (上郷小学校長)
- 「金井宿」 岸 衛 (渋川北中学校教諭)
- 「北牧宿」 五十嵐寛夫 (高妻高等学校長)
- 「横堀宿」 生方 護衛 (明治小学校長)
- 「中山宿」 荒井 正雄 (前高山村教育長)
- 「下新田」 相葉 伸 (群馬大学教授)
- 「布施」 三浦浅一郎 (前新治教育長)
- 「須川」 本多 夏彦 (県文化財専門委員)
- 「相俣」 片野 一司 (ホテル関所社長)
- 「渡ヶ京」 後園健之助 (利根農林高校教諭)
- 「永井」 後園健之助 (利根農林高校教諭)
- 「街道文化について」 本多 夏彦
- 「ルポルタージュ」 三ツ松 明 (上毛新聞社)

右の通りであります。これについては四十二年秋、二回にわたって共同の実地調査を行ない新資料の発見等も加えて目下執筆中であります。写真は柳田芳武（上毛新聞カメラマン）が多年撮影した労作を数多く掲載の予定です。

※ 「句碑めぐり」……（假題）

郷土史界の長老大多夏彦先生が多年心血を注いで研究された県内二百ヶ所にのぼる芭蕉句碑をはじめ、江戸期古俳諧の碑を網羅解説したものであります。

※ 「上毛民俗とくろくろ」

県社会教育課の肝入りで毎年実施されている民俗調査は多くの学術的成果を取めて、斯界でも注目されている所があります。その報告書は原から逐次刊行されていますがなお多くの貴重な記録が残されており、会員をはじめ県内外の各層からの出版要望に応じてこれを一本に集録刊行する予定です。

※ 「群馬の野球四方山話」

各位の絶大なるご協力とご激励に支えられて年と共に発展し、おかげ様で現在会員数は約二千三百余名となり更に躍進の一途を辿っております。今後其何卒倍旧のご支援ご鞭撻をお願い申し上げます。

次に例によつていくつかお願いやらご連絡やらを申し上げます。何卒これらの事につきましては特にご実行下さいますようお願いいたします。

◆ 会員の継続について

はじめ千名を目途に発足したこの事業も皆様の絶大なるご支援の下に年と共に発展してまいりましたが、更に会員を増加してよりよい業績をあげ郷土文化の進展につとめたいと存じております。就きましては全会員の皆様、四十三年度も是非継続会員としてご協力の程お願い申し上げます。若し止むを得ない事情でご退会になりたい方は必ず五月初旬迄に事務局までお申し出下さい。期限内にご連絡がない場合はご継続下さるものと認めて処理いたしますのでご了承下さい。

昨年度鏡寛編さんを怠っておりましたが、エピソードも豊富であり、かつはこの企画をご承知の方々から寄せられた新資料、記録も多く、さらに斯界の功労者、稲川東一郎氏（桐高監督）の急逝等もありまして発刊がおくれ申しわけありませんが今年度は何とか実現してみたいと努めております。

以上が四十三年度企画の大要であります。毎年のことながら、企画、編集、発行までには幾多の曲折もあり予定通りなかなか進まない事もありますので、その辺ご了承下さいますようお願いいたします。

事務局より

四十三年の新春を迎えただけのような気がしていましたが、いつか三月となつてしまいました。ここに本年度最終巻、第四回配本として「花袋とふるさと」をお届けいたします。

みやま文庫も誕生第七年度を送り、第八年度目を迎えることになりました。この間いく多の試練にあいつつも会員

◆ 会費の前納について

会費は六月末日までに是非前納して下さいませようお願いします。

諸物価の昂騰は皆様ご承知の通りでありますので運営委員会に於ても会費値上げの件が論議されましたが、会員の増募をはかり、関係諸費の単価を出来るだけおさえ、今年一年何とかこのままでやつてみようということになりました。ただ経費が非常に窮屈なため、会費前納の件を確実に実行していただかないと、会の運営にいろいろ支障を来しますので、この点全会員の皆様のご了承の上よろしくご協力下さいますようくれぐれもお願ひ申し上げます。

◆ 会員の増募について

前記のように会員は年毎に漸増しておりますが、会の運営の充實、発展を期するためには更に会員の増和を図らなければなりません。これは会員組織をとつている本文庫としましては各位と共に努力していかなければならない問題と存じます。会員の皆様におかれましても、近隣、知己、